議員バッジの国定氏と

三条市の課題解決へ勉強会　滝沢市長と市幹部

あいさつする国定衆院議員

三条市の滝沢市長をはじめ、幹部職員と先の衆院総選挙で初当選を果たした地元四区の国定勇人衆院議員（自民・北陸信越ブロック）による「市と国定衆院議員との勉強会」が二十九日午後四時から市役所で開かれ、三条市が抱える課題の解決に向けて、それぞれが果たすべき役割等について意見交換した。

地元国会議員と三条市とが関係する課題等について、現状と問題意識、解決に向けた方向性などについて共有、国政との連携をより深めていくことなどを目的としたもの。

これまで地元選出の県議会議員と市との懇談会は前国定市政当時から開いているが、その国政バージョン。

勉強会には議員バッジを付けた国定衆院議員と、市側は滝沢市長をはじめ、若山副市長、笹川総務部長ら幹部職員九人が出席。

冒頭、滝沢市長は「本来であれば、私の方から議会会館等にお邪魔するのが筋かと思いますが、こちらにいらっしゃるということで開かせて頂いた。要望だけでなく、背景や事情についてもお聞きくださるということで、そのような提案を頂いたことにも感謝申し上げたい。三条市の現状について、いろいろお話しさせて頂きますので、よりいい形で三条市がさらに発展するよう、お力添えをたまわりたい」とあいさつ。

国定衆院議員は「勉強会をもたせてほしいと、お願いしていたところ、快くこうした場を頂いたことに感謝申し上げたい。おかげさまで当選させて頂き、引き続き、三条の皆さんのために少しでもお役に立てればと考えている。これから先、東京と地元との二重生活になっていく中、なかなか三条のその場、その場の空気感にだんだんうとくなっていくのではないかと危惧している。できれば、定期的に勉強させて頂く機会を設けさせて頂きたい。きょうを皮切りに定期的に意見交換させて頂きたい」とし、四区内の他の市町村でも同様の形で勉強会を開いていくことでスケジュールを調整しているとした。

よりいい形で三条の発展に力添えをと、あいさつする滝沢市長

国定代議士に対する要望会

このあとは非公開で、約一時間にわたって意見交換。市側からは、空き家除却にかかる財政負担が大きく、代執行に踏み込めないケースも懸念される。こうした中、国の空き家対策総合支援事業の補助率や補助単価が実情に合わないとして検討を求めた。

このうち、空き家除却にかかる財政支援では空き家が増加傾向で、市が代執行で除却するケースも増えると見込まれる中、市の財政負担が大きく、代執行に踏み込めないケースも懸念される。こうした中、国の空き家対策総合支援事業の補助率や補助単価が実情に合わないとして検討を求めた。

材の確保、社会情勢に応じた産業支援策の構築など、十七項目について力添えを要望した。